

参加申込要領

PMシンポジウム

● お申し込み方法

WEBにてお申し込みを受付けます。『PMシンポジウム2010』のご案内ページをご参照ください。
<http://www.pmaj.or.jp/sympo/2010/main.html>

● 参加申込み期限

8月23日(月)〔早期割引申込み期限 7月30日(金)〕

※申込み先着順に定員となり次第締切りとさせていただきますので、早めの申込みをお勧めいたします。

● お支払い方法

お申込み受付後、電子メールにて参加費等を記載したお申込み受け付けデータをお送りいたします。
 早期割引適用の方は8月6日(金)までに、それ以外の方は8月30日(月)までに下記の口座にお振込みください。
 また、**お振込み時には、参加者名及び電子メールに記載されていますお申込み番号を必ずご記入ください。**

※企業名でお振込みの場合は、事前に参加者名及びお申込み番号を事務局までお知らせください。
 ※請求書払いをご希望の場合は、余裕をもって申込みをお願いいたします。
 ※恐れ入りますが振込み手数料はご負担ください。
 ※参加証は、参加費のご入金を確認させていただいた後、電子メールにてお送りさせていただきます。
 ※申込み後のキャンセル取扱いは、ホームページに記載しています。

口座名：三菱東京UFJ銀行 本店 普通 0737079
 名義人：特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会
 トクヒ)ニホンプロジェクトマネジメントキョウカイ

● お問い合わせ

日本プロジェクトマネジメント協会・事務局
 E-mail : admi-sympo@pmaj.or.jp TEL.03-3539-3022 FAX.03-3539-1741

● **参加費** 注) 参加申込み時にPMAJに入会申込みの場合は会員扱いとなります。
 会費及びシンポ参加費の入金確認後、電子メールにて参加証をお送りいたします。

	9月9日(木)			9月10日(金)			
	シンポジウム		懇親会	セミナー・ワークショップ			
	7/30まで(早期割引)	7/31以降(通常申込)	通常申込のみ	7/30まで(早期割引)		7/31以降(通常申込)	
PMAJ個人正会員	7,000円	8,000円	5,000円	8,000円 (半日講座)	16,000円 (1日講座)	9,000円 (半日講座)	18,000円 (1日講座)
PMAJ法人正会員および ENAA賛助法人会員の社員または職員 PMI会員及びITC協会会員	10,000円	11,000円	5,000円	11,000円 (半日講座)	22,000円 (1日講座)	12,000円 (半日講座)	24,000円 (1日講座)
一般参加者	13,000円	14,000円	5,000円	14,000円 (半日講座)	28,000円 (1日講座)	15,000円 (半日講座)	30,000円 (1日講座)
学 生	3,000円		5,000円	10,000円 (半日講座)	20,000円 (1日講座)	11,000円 (半日講座)	22,000円 (1日講座)

ENAA((財)エンジニアリング振興協会)

ENAAは、プロジェクトマネジメントをはじめとするエンジニアリング技術の向上・普及を目的として、1978年に設立されました。エンジニアリング、造船重機、鉄鋼、電機通信、産業機械、総合建設企業など200社が会員となっています。

PMAJ(NPO法人日本プロジェクトマネジメント協会)

PMAJは、プロジェクトマネジメント資格認定センター(PMCC)と日本プロジェクトマネジメント・フォーラム(JPMF)が統合されて2005年11月に発足した協会です。
 P2M資格試験や講習会・PMシンポジウム、例会、PM研修、国際交流、機関誌の発行等を通じて実践的PMの普及活動を行っています。

ACCESS 都営新宿線 船堀駅下車 徒歩1分



東京都江戸川区船堀 4-1-1 TEL.03-5676-2211

PROJECT MANAGEMENT SYMPOSIUM JAPAN 2010

PMシンポジウム 2010

ENAA/PMAJ 国内最大のPM大会

9月9日(木)・10日(金)

タワーホール船堀

江戸川区総合区民ホール

変化への挑戦
 プロジェクトの先を見据えよ!

▶ 基調講演1

「今こそ求められるイノベーション」
 慶應義塾大学 工学部教授 横溝 陽一

▶ 基調講演2

「羽田国際空港におけるD滑走路建設プロジェクト」
 鹿島建設株式会社 専務執行役員 峯尾 隆二

主 催：財団法人エンジニアリング振興協会(ENAA)
 特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ)

後 援：経済産業省

協 賛：社団法人情報サービス産業協会
 特定非営利活動法人ITコーディネータ協会

PMシンポジウム2010 開催のご案内

企業を取り巻く環境は、依然として全世界規模で厳しい状況にあります。そのような中で我が国でもパラダイムシフトを行い、世界級のエコ、スマート・プロジェクトの創出に成功している企業もあります。このような状況にあって、「新しいものを創る」こと、「プロジェクトを知恵を活用して遂行する」こと、「価値を創造する」こと、つまり「変化への挑戦」を実践することが、これからの社会に必要とされます。

価値の高いプロジェクトマネジメントに生まれ変わり、その先にある成長を見据えることが、国際社会の中で競争力をつけ、本物のプロジェクトマネジメントを実現するために重要です。

新しいものを創る

成長を続けるためには、新しいものを創り、価値を積み増さなければいけません。プロジェクト創造トラックでは、プロジェクトの創造者はどのように新しいプロジェクトを立ち上げているのか、プロジェクトマネジメントに対してどのような実践が期待されているのか、について考えます。

プロジェクトを実践する

先人達に習い、新たな知恵を使って、より国際競争力のあるプロジェクトの実践が必要になります。各トラックでは、様々な業種業態でのプロジェクト&プログラムの実践事例を中心にご紹介いたします。そして、その経験をどのようにして次の成長につなげ価値を創造するか提言いたします。

価値を創造する

プロジェクトから価値を創造して、成長を継続することが大切です。CFP(公募に基づく講演)やワークショップ、更に「カフェ・ド・eシンポ」などの参加型シンポジウムを開催いたします。成長を継続するためのヒントをご提供いたしますのでご期待ください。

各種ポイントの認定対象となる—

PMシンポジウム 2010

■CPU ■PDU ■PM教育受講証明 ■知識ポイント

■CPU

発給ポイントは以下の通りです。(1時間当たり2ポイントが基本となります)

- 1日目(全時間出席の場合)：10.5ポイント
- 2日目(半日講座)：5ポイント
- 2日目(1日講座)：10ポイント

CPU取得証明書を発行いたします。

■PDU

ENAAはPMI®認定教育プロバイダー(REP)であり、本大会は、メイン・シンポジウム並びに2日目のセミナー共にPMP®向けのPDU発給対象となっております。発給ポイントは以下の通りです。

- 1日目：5.25PDU
- 2日目(半日講座)：2.5PDU
- 2日目(1日講座)：5PDU

注意 PMI®へのPDU申請は必ず一括で行ってください。(1日目・2日目を分割するとエラーになります。) また、PMP®資格認定試験受験用受講証明書も発給致します。

■知識ポイント(ITコーディネータ)

ITコーディネータ資格者には、協賛(後援)により、1日目は6時間30分、2日目は、半日講座はそれぞれ2時間30分、1日講座は5時間(4時間当り1ポイント相当(上限なし))の「知識ポイント」が付与されます。

1日目(9月9日) 午前

基調講演1 今こそ求められるイノベーション

10:00~ 共創のための「プロジェクトマネジメント力」の重要性



慶應義塾大学 理工学部教授
慶應義塾大学フォトリサーチ・インスティテュート研究支援統括者 横溝 陽一

内閣府の「最先端研究開発支援プログラム」に選出された慶應義塾大学小池康博教授の「世界最速プラスチック光ファイバーと高精細・大画面ディスプレイのためのフォトニクスポリマーが築くFace-to-Faceコミュニケーション産業の創出」の研究支援統括者として、産学連携での共創の視点でのプロジェクトマネジメントの重要性について語る。イノベーション・リーダーとして、過去にローソンのCIOとして実践したイノベーションでの成功事例についても講演の中で例として説明する。また、講演者が4月にローソンから慶應義塾大学に転身した契機となった2007年の慶應義塾大学の同窓会活動である連合三田会の福引部会での活動についても語る。

講演者は1990年代中盤にPMAJ(旧JPMF)の創設に関わった経緯があり、プロジェクトマネジメントには、当時の「構想されたプロジェクトの確実な計画・遂行のための組織・手法の提供という伝統的な役割」に加えて、今日ではまさに「変革を支えるメタ・マネジメントモデルとして、プロジェクトの初期段階からの活用機会が増えていること」を講演者自身の経験から、イノベーションフロントとしての実感をお伝えする。

【講師略歴】1979年慶應義塾大学機械工学科修士課程修了後、三菱商事に入社。86年MIT Sloan School MBA修了。米国ベンチャー・キャピタル勤務後、88年に三菱商事情報産業グループ帰任。米国ロッキード・マーチン社の子会社Formtek社のCALS対応の企業統合情報管理システムを核として三菱商事のSI事業として50社を超える大手企業にシステム導入を果す。PMAJの母体となった日本プロジェクトマネジメント・フォーラムの設立に関与・理事を務める。2001年より経営企画部でIT戦略担当し、02年に米国SCM大手のi2テクノロジー・ジャパンの代表取締役社長就任。2007年にローソンに入社し、常務執行役員CIOとして次世代ITシステム導入と全社業務改革に従事。本年4月より現職。

基調講演2 羽田国際空港におけるD滑走路建設プロジェクト

11:05~ 空港機能の増大を目的とした海上滑走路の建設



鹿島建設株式会社 専務執行役員 峯尾 隆二

羽田空港における4本目の滑走路は、国土交通省によって2005年3月に設計施工一括方式のもと発注され、ゼネコン6社、マリコン6社およびファブリケータ3社からなる15社JVで施工が進められてきた。全長2,500mの滑走路を2,020mの埋立部分、1,100mの棧橋部分を組み合わせた全長3,120mのハイブリッド構造体上に造成するもので、極めて高度の技術レベルが要求された。

設計は、現在得られる最高技術を反映させ、与えられた性能規定を満足する技術提案を行った結果、当JV案が採用されたものである。設計の基本として、本構造物が100年間機能保持するよう、各社が保有する最新技術を余すことなく用いて、さらにライフサイクルコストを常に念頭におくこととし、JV内に常駐する40名ほどの設計技術者と構成各社の設計部門との協同作業で、延べ約10万人日の人工をかけ実施した。

施工は、2007年3月に全体を9工区に分割し、3~4社/工区の各社がそれぞれ持分金額に応じた責任を分担する乙型施工を基本として実施してきた。工事全体を束ねる共通管理組織をその上に立ち上げ、工区と一体となったプロジェクト運営を行い、この8月末に無事竣工を迎えた。

本講演は、これまで余り実績のない新技術を軟弱地盤に対し適用し、船舶が輻輳する東京湾内、かつ供用中の空港隣接水域で、41ヶ月という極めて短工期の内に進めてきた羽田D滑走路のPMについて紹介する。

【講師略歴】東京大学工学系大学院土木工学科修士課程卒。1970年4月 鹿島建設株式会社入社 原子力室、福島第二原子力発電所工事。1980年5月 国際事業本部NY駐在員事務所。1984年7月 土木本部羽田沖合展開事業工事に12年間従事。1998年6月 東京支店 土木部長を経て、2000年7月 取締役東京支店副支店長。2004年11月 羽田プロジェクト専任。2005年3月 羽田再拡張D滑走路工事受注に伴いJV現場代理人就任。2009年4月 専務執行役員 現在に至る。この間、通算17年間、羽田国際空港関連工事に従事している。

シンポジウムプログラム

SiG : 特定テーマ研究会 (Specific Interest Group)

CfP : 公募講演 (Call for Presentation)

ワークショップ : 参加型講座

P2M : 研修事業第1部会

PMF : 研修事業第2部会

※両日とも会場はPMAJホームページにてご確認ください。(8月中旬掲載予定)

9月9日(木) ・2F 平安「カフェ・ド・eシンポ」…“参加者交流の場”“展示コーナー”“ドリンクサービス”

午前		午後							夕方	
5F 大ホール・小ホール (定員750名・300名)		ITトラック	P2Mトラック	エンジ・建設・公共トラック	プロジェクト創造トラック	製造トラック	金融・流通・サービストラック	PM人材育成トラック	2F 瑞雲	
09:15	開場、受付開始	13:10 ┆ 14:00 長尾 清一 (PMコンセプト)	【IT-1】 自社を差別化できる戦略的提案プロセス 低迷期における生き残りのための案件獲得術	【PA-1】 法人運営を通じたP2M実践事例 海外法人と傍系子会社運営でのスパイラルアップ 坂井 剛太郎 (朝日興産)	【EG-1】 P2Mから見たCO2削減達成に伴うグリーンビル戦略への提案 太田 鋼治 (日本工業大学) CfP	【CR-1】 「オープン・イノベーション」で切り拓く 大阪ガスグループ型技術戦略 松本 毅 (大阪ガス、大阪大学大学院) CfP	【MS-1】 プロジェクトとビジネスをつなぐ仕組み ビジネスの視点からプロジェクトを考える 浦 正樹 (エム・アイ・アール)	【FI-1】 政府系証券システム構築のポイント 危機管理のノウハウを語る 平井 一志 (年金積立金管理運用独立行政法人) CfP	【PS-1】 案件獲得におけるPMの役割 キャプチャー概念～提案段階起点の品質管理～ 北村 和彦 (シップレイジャパン)	18:00 ┆ 20:00 懇親会 講演者、広い層の参加者、シンポジウムチームメンバーとネットワークを広げる交流の場を提供致します。
09:45 ┆ 10:00	開会のご挨拶 「主催者挨拶」 「来賓ご挨拶」									
10:00 ┆ 10:50	基調講演 1 今こそ求められるイノベーション 慶應義塾大学 理工学部教授 横溝 陽一	【IT-2】 決済システムの要件定義における取捨選択 予見する力と捨てる勇氣 田鎖 智人 (ヤフー)	【PA-2】 競争力のある組込みシステム開発の方法 擦り合わせ型指向開発の方法とその革新 金子 龍三 (プロセスネットワーク)	【EG-2】 羽田D滑走路建設工場のジャケット製作 大量・短期間の鋼構造製作プロジェクトマネジメント事例 竹内 貴司 (羽田再拡張D滑走路建設工事共同企業体)	【CR-2】 地域信頼性のプログラムマネジメント 地域の信頼性向上のための防災・防犯プログラム 佐藤 唯行 (シユアティ・マネジメント協会)	【MS-2】 PMとSEのためのWBSの再定義と使い方 従来の問題を一挙に解決するTCN-WBSの方法 江崎 通彦 (DTCNインタナショナルInc.) CfP	【FI-2】 サービスモデルが価値を生むしくみ作りをプロジェクト化する 早い事業環境の変化でのしくみ作りのP2Mの活用 藤澤 正則 (キユービー)	【PS-2】 製造業ソフト開発に適した組織構造 下野 善弘 (堀場製作所)		
11:05 ┆ 11:55	基調講演 2 羽田国際空港におけるD滑走路建設プロジェクト 鹿島建設株式会社 専務執行役員 峯尾 隆二	【IT-3】 要件定義の勘どころ プロジェクトを成功に導く要件定義の方法は何か 小田 滋 (DICインフォメーションサービス)	【PA-3】 サステナブルP2Mのエンジニアリング基盤 梅田 富雄 (青山学院大学) CfP	【EG-3】 公務員改革プロジェクトの方向性と具体策 元官僚、現コンサルタントが語る「公務員改革なくして国滅ぶ」 山中 俊之 (グローバルダイナミクス、関西学院大学)	【CR-3】 ビジネスを創造するプログラムマネジメントの現場 技術を顧客価値に変える商品開発プロジェクト 伊藤 佳美 (日本ユニシス)	【MS-3】 電気自動車「日産リーフ」の開発プロジェクト 電気自動車が拓く明日のモビリティ社会 門田 英穂 (日産自動車)	【FI-3】 がんばれ日本発メタPM体系 日本の強みメタPMモデルで世界貢献 田中 弘 (日本プロジェクトマネジメント協会)	【PS-3】 業種業務に精通したPM人材を育成せよ IT医療業種スペシャリスト達の終わりなき挑戦 佐々木 詠子 (富士通) CfP		
		【IT-4】 プロジェクト描写のための情報構造 正確なプロジェクト把握のために 高橋 敏浩 (日立システムアンドサービス)	【PA-4】 IT分野でのP2M活用研究 IT分野でのP2M必要性和普及のための方策 近藤 洋司 (ゆうちょ銀行) SiG	【EG-4】 超大型LNGプラント建設への挑戦 世界最大のカタールLNGプロジェクト遂行の記録 池田 誠一郎 (千代田化工建設)	【CR-4】 スマートグリッドの導入と電気事業 スマートグリッドに係る多様な取り組みと今後の展望 小笠原 潤一 (日本エネルギー経済研究所)		【FI-4】 手仕事の継承におけるPM 技術提供企業×教育現場×生活者を結ぶ 佃 由紀子 (ツクダ・クロス・スタイル)	【PS-4】 国際プロジェクトに通用する人材育成の方法 国際宇宙ステーションとはやぶさの事例 長谷川 義幸 (宇宙航空研究開発機構)		

※小ホールは映像による中継となります。

※講演者および演題は都合により変更される場合があります。

9月10日(金) セミナー・ワークショップ全20プログラム開催 ～PM基礎/実践・PM人材教育・業種ごとのセミナー・ワークショップ～

午前 (10:00~12:30)		午後 (13:45~16:15)	
A-1	21世紀を生き抜くためのPM:プロジェクト&プログラムマネジメント 考え、企画し、行動し、外部環境からの反応に適切させる行動能力があなたの生涯を支える 渡辺 貢成 (経営組織研究所) P2M	B-1	PMBOK®ガイド解説 米国PMI®のプロジェクトマネジメント知識体系とその位置づけ 内藤 裕一 (ピーアンドアイ) PMF
A-2	その対策で本当に同じ失敗しませんか? ITプロジェクトのなぜなぜ5回2010 小原 由紀夫 (富士通アドバンスドエンジニアリング) SiG	B-2	OJT依存の人材育成:破たん対策 「底上げ教育」から「トップガン育成」へ! 松尾谷 徹、原田 奈美 (PS研究会・デバッグ工学研究所) SiG
A-3	ITプロジェクトの未来を変える『要求開発』の実践 ビジネス価値を生み出す新たなマネジメント技法 萩本 順三 (匠BusinessPlace)	B-3	手戻りを最小限に抑える要件定義のコツ 要件定義をスムーズに進める質問力・要約力 田淵 秀乙 (パスカル)
A-4	ビジネスとITの融合を支えるIT国際標準の動き グローバルな土台に独自技術を開発しよう 緒方 慎八 (日立インフォメーションアカデミー)	B-4	PM成功のための超上流アプローチ PMIにおけるビジネスアナリシスの位置付け 榊原 英昭 (International Institute for Learning-Japan)
A-5	チームビルディングからはじめよう プロジェクトを成功させる自律型チーム作り 岡島 幸男 (永和システムマネジメント)	B-5	Strengths-Based TeamBuilding 強みを活かしてチームを作る方法 長尾 彰 (している) ワークショップ
A-6	長期的まちづくりのマネジメントとは 富山ライトレール開業からのその後を見る 宮沢 功 (環境デザイナー)	B-6	乾いた雑巾より、濡れた雑巾を絞れ! 「効果」を出す! 3D (XVL) 活用の実際 田中 剛 (やまびこ)

午前 (10:00~12:30)		午後 (13:45~16:15)	
A-7	分断から協働へ プロジェクトを成功に導くコミュニケーションは? PMAJ ダイアログSIG SiG ワークショップ	B-7	「ドラマチックコミュニケーション」がビジネスを活性化させる! 「本質力」を身につけ貴方という個性を輝かせよう! 野原 秀樹 (MANY ABILITIES) ワークショップ
A-8	「死ぬまでに達成すべき25の目標」ふたたび パーソナルPM、4年後の追跡調査 中嶋 秀隆 (プラネット)	B-8	狩猟型プロジェクトマネジャーの秘密 不確実性の高いプロジェクトを成功させる 伊藤 健太郎 (アイシンク)
A-9	仕事を通じて若手を育てる 若手が育つ環境づくりと育成のノウハウを学ぶ 田中 淳子 (グローバルナレッジネットワーク)	B-9	リーダーになれるか!?リーダーは育てられるか!? リーダー塾とアネゴ塾の取り組みと現場の人材育成を考える 上田 雅美 (アネゴ企画) ワークショップ

1日セミナー	
A-10	コンフリクト・マネジメント 多様化する職場での協力的問題解決 鈴木 有香 (オイクス) ワークショップ
A-11	体験! 「質問会議」で変わるチームと組織 議論する会議から対話する会議へ 新岡 優子 (ビジネスファシリテーション・サービス) ワークショップ

※両日とも申込み先着順に定員となり次第締切りとさせていただきますので、早めの申込みをお勧めいたします。
※講師および演題は都合により変更される場合があります。

IT-1 自社を差別化できる戦略的提案プロセス 13:10 低迷期における生き残りのための案件獲得術

株式会社 PMコンセプツ
代表取締役社長 長尾 清一

【セッション概要】

各業界で情報システム投資の前年比割れが続いている。開発案件の減少により、殆どの案件が価格競争に陥っている。単にRFPに対応した提案では、激化した受注競争を乗り切れない。では勝率の高い提案には何が必要か？ 顧客に「意外性」を感じさせ自社を差別化できる提案である。顧客ニーズを満たす「戦略的ストーリー」が描けるかどうか鍵になる。本セミナーは、営業職と連携して「顧客に対する自社の優位性」と「競合に対する比較優位性」を実現できる提案スキルを解説する。

【講演者略歴】 UCバークレー校ビジネススクール卒MBA取得。大規模プロジェクトを15年間指揮監督。93年よりPM専門の米国企業アジア総責任者として7ヶ国でPM研修を実施。93年PMP®取得。97年株式会社PMコンセプツ設立。近著に「問題プロジェクトの火消し術」「ベンダー・マネジメントの極意」

IT-2 決済システムの要件定義における取捨選択 14:15 予見する力と捨てる勇氣

ヤフー株式会社
ID決済サービス本部 決済企画部 部長 田鎖 智人

【セッション概要】

決済システムに求められる要件は高く、システム評価に求められる「RASIS」を満たすと同時に、高い汎用性も求められる。社内の経理部門やサービス部門はもとより、消費者、ビジネスパートナー、金融機関など対外的にもシステムユーザーが多岐に亘り、リリース後の仕様変更が困難であるため、要件定義は一般的なシステムより高い精度が求められる。本セッションでは、決済システムに関わる方々に何らかの形で寄与できるよう、この課題への取り組み状況を共有する。

【講演者略歴】 1995年クレジットカード会社入社。2003年ヤフー株式会社入社。Yahoo!ポイントやジャパンネット銀行と連携した決済サービス等の立ち上げを担当。2006年ジャパンネット銀行非常勤取締役（現任）。2009年決済企画部長として決済サービスの統括を担当。

IT-3 要件定義の勘どころ 15:35 プロジェクトを成功に導く要件定義の方法は何か

DICインフォメーションサービス株式会社
代表取締役社長 小田 滋

【セッション概要】

日本情報システムユーザー協会（JUAS）のIT動向調査では、2009年度においても40%強の大規模プロジェクトが工期遅延と予算超過となっている。また、工期遅延においては54%が要件仕様の問題があったとしている。一方、要件仕様が明確であった場合は79%がほぼ予定通りの工期であった。昨年JUASにおいて実施された、日本の代表的ソリューションベンダーとユーザーでのパートナーシップの改善プロジェクトにおいて議論された成果を踏まえ、自社の内容を加味して紹介する。

【講演者略歴】 DICに入社後、事業部で新製品開発。原料部門で国際調達の組織立上とDWH構築。市場開発部で新事業の創出に加わった後、2001年に情報システム部門に。2003年にDIC情報システム部長、2009年より現職。経済産業省やJUASの部会・委員会・コンシアムのメンバー。

IT-4 プロジェクト描写のための情報構造 16:40 正確なプロジェクト把握のために

株式会社 日立システムアンドサービス
品質保証部 主任技師 高橋 敏浩

【セッション概要】

ソフトウェア開発時、開発実態を把握し、把握された情報が関係者の間で共有されている必要がある。この情報が、様々な人の判断の基礎になるからである。現場の状況を正しく把握し、必要な情報を関係者に正しくかつ適切に伝える必要があるが、今のプロジェクトでは必ずしも上手くいっていない。開発現場の実態を如何に捉えるかPMは悩んでいる。それぞれの役割を持つ人々に適切な情報を与えるため、プロジェクト情報を構造化し、正確に状況把握する方法を提案する。

【講演者略歴】 1991年日立システムエンジニアリング株式会社（現株式会社日立システムアンドサービス）入社。交通系個別受注システムの品質保証業務に従事。2009年、PM支援によるプロジェクト成功経験論文をソフトウェア品質シンポジウムで発表し「SQiP Effective Award」受賞。

PA-1 法人運営を通じたP2M実践事例 13:10 海外法人と傍系子会社運営でのスパイラルアップ

株式会社 朝日興産
取締役社長 坂井 剛太郎

【セッション概要】

国内外の建設プロジェクト運営・管理や技術指導、社内業務改革等、建設業におけるPM手法の活用・展開を行った実践経験をベースに、ここでは法人格の組織運営責任者として実施した、経営におけるP2Mの応用事例について論じる。PMフォーラム2009京都で講演した海外現地法人事例での内容に、現職の傍系会社における実施事例を加えて検証した、運営責任者に求められるP2M能力について、法人運営のモデル化を始め、経営上の視点で考察する。

【講演者略歴】 1982年京都大学工学部建築学科卒、同年竹中工務店入社。大阪本店作業所、タイ駐在、アメリカ駐在、本社生産本部を経て、2002年香港竹中代表、2005年アメリカ竹中代表、2009年より現職。技術士（経営工学、総合技術監理）、一級建築士、一級施工管理技士。

PA-2 競争力のある組込みシステム開発の方法 14:15 擦り合わせ型指向開発の方法とその革新

株式会社 プロセスネットワーク
代表取締役社長 金子 龍三

【セッション概要】

組込みシステム開発の改善及び改革の方法である組み合わせ及び擦り合わせについて、アーキテクチャと開発モデルの両面から説明し、組込みシステム開発プロジェクトマネジメントの勘所さらにスポンサーを含めた人材育成について、平成21年度調査研究「擦り合わせ型指向による組込みシステム開発プロジェクトマネジメント基盤」の調査研究報告に基づいて説明する。ITシステム開発と組込みシステム開発のプロジェクトマネジメント上の相違点についても補足説明する。

【講演者略歴】 1970年日本電気株式会社入社、情報システム開発を経て、組込みシステム開発を担当、部長級、本部長を歴任。その後、日本電気通信システム株式会社において品質保証担当執行役員 部長級PM研修機関の長を歴任。2006年株式会社 プロセスネットワーク 代表取締役社長

PA-3 サステナブルP2Mのエンジニアリング基盤 15:35

青山学院大学 総合研究所
客員研究員 梅田 富雄

【セッション概要】

企業は、サステナビリティ志向の活動を前提にその存続条件を満たしながら運営される必要がある。本報告では、製造業における新たな事業展開において、P2Mの実践にあたり、標準プロジェクトモデルによって構成されるプログラムの生成過程を明らかにし、次いでサステナビリティ志向活動に基づくエンジニアリングとマネジメントについて、必要とするシステムのデザイン及びオペレーションに関するエンジニアリング基盤について取り上げる。

【講演者略歴】 1958年東工大卒、千代田化工建設入社、副本部長、技監を歴任。1989年退職、筑波大学大学院経営システム科学専攻教授、1995年11月千葉工業大学工業経営学教授、1997年プロジェクトマネジメント学科設立に従事、同学科教授、2003年同大学定年退職、現在にいたる。

PA-4 IT分野でのP2M活用研究 16:40 IT分野でのP2M必要性と普及のための方策

株式会社 ゆうちよ銀行
第一システム開発部 部長 近藤 洋司

【セッション概要】

IT分野ではプロジェクトマネジメントが普及、定着しつつあるが、一方では、プロジェクトの高度化、複雑化、更には経営と直結した案件も取り扱うことで、従来のプロジェクトマネジメント手法だけでは限界を感じるようになって来た。依頼者側とベンダー側とを一体的にマネジメントし、最適解（機能、納期、コスト、成果）を求める仕組み・やり方が求められつつある。P2Mがこれら要求に如何に応えられるか、また、応えるにはどうしたら良いか、研究成果を報告する。

【講演者略歴】 早稲田大学理工学部卒業、富士通株式会社入社。主として、金融機関向けシステム開発に従事。システムエンジニア、プロジェクトマネジャー、システムコンサルタントなどを経て現職。

EG-1 P2Mから見たCO2削減達成に伴う 13:10 グリーンビル戦略への提案

日本工業大学 大学院
技術経営研究科 客員教授 太田 鋼治

【セッション概要】

国が推進している「環境不動産（ERE）戦略」と「ゼロ・エネルギー・ビルディング」の両面から、CO2削減に関連するプロジェクト戦略について、分かり易く説明する。増大する「グリーンコスト」を、日本の環境先端技術と融合した全体最適性のあるVFM（バリューフォーマネー）の視点から、先進的な手法と言われるシンガポールのグリーンマーク事例と比較／分析し、環境分野でのP2M手法の普及と低迷する日本の建設／不動産業の活性化を提案する。

【講演者略歴】 1979年芝浦工業大学卒業、同年鹿島建設入社。1989年ロンドン大学院卒。16年間シンガポール、英国の海外工事に従事。2000年より開発型建設プロジェクトなど次世代型建設に従事。社団法人日本建築積算協会理事／関東支部長、工学博士、一級建築士、一級建築施工管理技士

EG-2 羽田D滑走路建設工事のジャケット製作 14:15 大量・短期間の鋼構造製作プロジェクトマネジメント事例

羽田再拡張D滑走路建設工事共同企業体
ジャケット製作工区 工区長 竹内 貴司

【セッション概要】

羽田空港4本目の滑走路であるD滑走路は、ジャケット栈橋工法と埋立工法を組み合わせたハイブリッド形式である。新滑走路島（全長3120m）の約3分の1（1100m）は、多摩川の流れを阻害しないように、ジャケット構造で構成されている。198基のジャケットの鋼材重量は26万トンにも及ぶ。この大量のジャケットをわずか3年（2006年12月～2009年12月）で製作したフォーメーション、リスク、成功・失敗事例、リカバリーなどについて、紹介する。

【講演者略歴】 1984年新日本製鐵株式会社入社。主としてパイプラインのエンジニアリング業務に従事。水道施設部長を経て、2005年羽田D滑走路建設工事共同企業体へ派遣、ジャケット製作工区長。所属は新日鉄エンジニアリング株式会社海洋事業部 ゼネラルマネジャー。

EG-3 公務員改革プロジェクトの方向性と具体策 15:35 元官僚、現コンサルタントが語る「公務員改革なくして国滅ぶ」

株式会社 グローバルダイナミクス 代表取締役社長、
関西学院大学 経営戦略研究科教授 山中 俊之

【セッション概要】

現在、公務員改革が僅々の課題となっております。明治以来日本社会の中枢に位置した公務員制度が、制度疲労を起こしています。一方で、公務員改革を進める政治家は、公務員との様々なしがらみがあり、改革が推進できていません。元官僚（外務省）で、現在は大阪府や厚労省の改革にも関与するコンサルタントが、官民比較や海外の視点も入れて、公務員改革について、プロジェクトマネジメントの視点から縦横に語ります。

【講演者略歴】 株式会社グローバルダイナミクス代表取締役社長。関西学院大学 大学院 経営戦略研究科 教授。1990年外務省入省。対中東外交、地球環境問題等担当。著書「公務員人事の研究」「公務員の人材流動化がこの国を劇的に変える」（東洋経済新報社）など。

EG-4 超大型LNGプラント建設への挑戦 16:40 世界最大のカタールLNGプロジェクト遂行の記録

千代田化工建設株式会社
理事 技術部門 副部門長 池田 誠一郎

【セッション概要】

2004年から始まったカタールガスIIのLNGプラント建設プロジェクトは世界最大級のLNG生産設備を有する超大型プロジェクトであった。その設備は年産780万トン（日本の年間LNG総輸入量の10分の1を賄う量）規模のプラントを2系列有すものである。プロジェクトを遂行するに当たり、世界各地より機器・資材を調達し、世界約40カ国からなる人材を投入した。いくつもの課題を克服して遂行したプロジェクトの記録を振り返り、プロジェクトマネジメント実践の観点から一考察を発表する。

【講演者略歴】 九州大学工学部応用化学科卒、千代田化工建設株式会社入社。石油・石油化学・LNGの海外プロジェクトにてPM/EMとして従事。プロジェクトマネージメント部長、カタール本部副本部長を歴任し、カタールガスII LNGプロジェクトのPD。現在、技術部門副部門長。

CR-1 「オープン・イノベーション」で切り拓く 13:10 大阪ガスグループ型技術戦略

大阪ガス株式会社 オープン・イノベーション室長、
大阪大学 大学院 招聘教授 松本 毅 

【セッション概要】

『自社が強みを有するコア技術を強化し、内外の異種技術と結合・融合させ、付加価値を増大させるオープン・イノベーション型技術戦略の展開が必要不可欠になっている。このような多様な外部の資源をダイナミックに活用する枠組みを成功させるかどうかは、まさにプロジェクトマネジメント力 (P2M) にかかっている。大阪ガスグループの事例を紹介することによって、日本企業が必要とするプロジェクトマネジメント型「オープン・イノベーション」の在るべき姿を考える。

【講演者略歴】【大阪ガスでの職歴】1981年大阪ガス株式会社入社。凍結粉砕機の開発。薄膜センサー研究開発。技術企画室課長。人事部課長。MOTスクール設立。株式会社アイさぼーと取締役MOT事業本部長。2008年9月大阪ガス株式会社オープンイノベーション担当部長。2010年4月現職。

CR-2 地域信頼性のプログラムマネジメント 14:15 地域の信頼性向上のための防災・防犯プログラム

特定非営利活動法人 シュアティ・マネジメント協会
理事長 佐藤 唯行

【セッション概要】

どんな災害が、いつ、どこで、どのようにして発生するのか、極めて不確実性の高い災害に備えるには、日本という国全体の防災対策のプログラムを総合的にマネジメントする視点と全体像の提示が重要であるが、現状ではこれができていない。国家プログラムとしての『防災力の向上』に関するマネジメント能力が備わっていない中、いかにして地域の防災力を高めていくのか。地域とこのような問題を解決するために、『シュアティ(信頼性)』という言葉で、新しい価値としてのプログラムを描いてゆく。

【講演者略歴】1996年:災害軽減工学において修士号を取得。1996年:清水建設株式会社 国内各所及び海外各所で勤務。2008年:東京大学生産技術研究所民間活力による社会全体的な災害対応力の研究をメインテーマとし研究活動を再開。(現職)2008年:NPO 法人シュアティ・マネジメント協会を立ち上げる。

CR-3 ビジネスを創造するプログラムマネジメントの現場 15:35 技術を顧客価値に変える商品開発プロジェクト

日本ユニシス株式会社
サービス企画部 戦略推進室 室長 伊藤 佳美

【セッション概要】

ビジネスの現場では、顧客ニーズを迅速に捉え提案力を高めることが益々求められている。提案力を高めるためには、顧客ニーズを先取りした商品や各種サービス、開発プロジェクトを支えるための仕組みづくりなどが必要になる。本セッションでは、ビジネスの単位をプログラム、商品を開発する単位をプロジェクトとして、ビジネスプロジェクトと開発プロジェクトの関わり方や、プログラムマネージャーとプロジェクトマネージャーとの役割などを事例を交えて紹介する。

【講演者略歴】東京都立大卒。某電子機器通信メーカーで営業職を経験した後、2003年に日本ユニシス株式会社に入社。OSSビジネス全般、システム開発基盤などのプログラムマネージャとして従事、各種商品開発を推進中。

CR-4 スマートグリッドの導入と電気事業 16:40 スマートグリッドに係る多様な取り組みと今後の展望

財団法人 日本エネルギー経済研究所
戦略・産業ユニット電力グループリーダー 小笠原 潤一

【セッション概要】

スマートグリッドは、近年世界的に注目が集まっており、わが国でも複数の実証研究が開始されたところである。電気事業形態の違いや採用されている設備の違いもあり、米国では省エネルギー及び再生可能エネルギー、日本・欧州では再生可能エネルギーへの対応として取り組まれており、目指している方向が異なるが、共通する要素も多く、どういった分野での技術の革新に繋がるか注目される場所である。また小口需要家に展開する際の課題の指摘も行う。

【講演者略歴】平成12年より電気事業分野の調査研究に従事。経済産業省、電力会社等からの委託業務経験多数。平成15年北米北東部停電調査団メンバー、平成16年ESCJルール策定WGメンバー、平成20年新エネルギー大量導入に伴う系統安定化対策・コスト負担検討小委員会委員 等



MS-1 プロジェクトとビジネスをつなぐ仕組み 13:10 ビジネスの視点からプロジェクトを考える

エム・アイ・アール株式会社
ダイレクター 浦 正樹

【セッション概要】

日本の現場では、いまだにプロジェクトチームの自己犠牲的な努力でゴールを達成している。その目的は組織にビジネス上の価値をもたらすためである。ところが、その価値とは、プロジェクトが始まる前に決まるものであり、プロジェクトチームが主体的にコントロールできるものではない。昨今、プロジェクトの価値が問われ始めているが、それはプロジェクトの問題ではなく、組織の仕組みの問題である。セッションでは、ビジネスの視点からプロジェクトの価値とは何かを考える。

【講演者略歴】いすゞ自動車、アルテミスインターナショナル、PWCC (現IBM)、マイクロソフトなどを経て、現在に至る。「失敗する前に読む プロジェクトマネジメント導入法」(株式会社翔泳社)「プロジェクトを成功に導く組織モデル」(日経BP) など、著書多数

MS-2 PMとSEのためのWBSの再定義と使い方 14:15 従来の問題を一挙に解決するTCN-WBSの方法

DTCNインタナショナルInc.有限会社
代表取締役 江崎 通彦 

【セッション概要】

落ち漏れのないWBSによるマネジメントをするため、従来、的確に説明のできていなかったPMとSE (Systems Engineering management) の関係を明確にし、かつ両分野において、WBS (Work Breakdown Structure) によるマネージメント上、創造的なWBSの構築手法の問題を一挙に解決した方法。この問題の解決は、欧米でもまだ解決されていなかったものである。IT及びもの・システムのPM、SEに共通に使える。

【講演者略歴】川崎重工航空宇宙本部にて1976デザインツークストの手順を開発、航空機の開発に適用、デザインツークカスタムニーズの方法まで発展させた。石田財団DTCN研究室長、朝日大学大学院プロジェクト管理研究室教授、有人宇宙システム株式会社企画主幹、学術博士

MS-3 電気自動車『日産リーフ』の開発プロジェクト 15:35 電気自動車が拓く明日のモビリティ社会

日産自動車株式会社 ゼロエミッション事業本部
ものづくり・クオリティー本部 CVE 門田 英稔

【セッション概要】

2010年12月に、日・米・欧で電気自動車「日産リーフ」の販売を開始する。胸のすく加速感、圧倒的な静かさ、日常で十分な航続距離、ITによる24時間サポートなど、「日産リーフ」の魅力とそれを支える技術を、日産の電気自動車開発に初期から携わってきたチーフ・ヴィークル・エンジニアがプロジェクトでの経験を通して紹介する。また、EVの普及に向けた、充電インフラの拡大がグローバルで進められており、EVによる魅力的で環境にやさしい社会実現に向けた取り組みを紹介する。

【講演者略歴】09年7月 ゼロエミッション事業本部 CVE。07年12月 Nissan PV 第1製品開発本部 CVE。06年4月 パワートレイン開発本部 HEV開発部 主管。02年4月 先行車両開発本部 FCV開発部 主管。82年4月 日産自動車株式会社 入社。82年3月 横浜国大 機械工学科 修士卒業。

FI-1 政府系証券システム構築のポイント 13:10 危機管理のノウハウを語る

年金積立金管理運用独立行政法人
情報化統括責任者 (CIO) 補佐官 平井 一志 

【セッション概要】

システム開発において、業務内容の理解不足から基本設計が大幅に遅れ、プロジェクトが危機的状況に陥った場合、PMはどのように対処すべきか。このような危機の真の原因は、多くの場合意思決定の遅れであり、まずは経営陣の積極的な関与を求める必要がある。つぎに有識者を確保し、タイムマネジメントとして「ファストトラック」を採用する。ただしこれには副作用を伴う。業務・システム最適化の先陣を切った証券システムの構築を材料として、危機管理のノウハウを語る。

【講演者略歴】1975年三井信託銀行株式会社 (現中央三井トラスト・グループ) 入社、資金部、資金証券部、総合企画部、年金運用部、公的年金運用部長。2002年同信託システム子会社、中央三井インフォメーションテクノロジー株式会社取締役就任、品質保証部長ほか歴任。2008年現職。

FI-2 サービスモデルが価値を生むしくみ作りをプロジェクト化する 14:15 早い事業環境の変化でのしくみ作りのP2Mの活用

キューピー株式会社
生産本部エンジニアリング部次長 藤澤 正則

【セッション概要】

サービスモデルで価値を生むために、しくみを作っていくことは重要である。2008年9月以降、外的環境、内的環境共に大きく変わってきており、これまでのHow toでの進め方から、what toのP2Mでのしくみ作りが有効で効果的である。ここでは「①進め方の合意」「②環境の変化としくみを変えていく必要性」「③しくみを見える形にする」「④しくみ作りをPJ化する」のステップでの実践事例を説明します。

【講演者略歴】1985年キューピー株式会社入社。生産部門を経験後、エンジニアリング部門での製造ライン導入などに携わる。その後、CVS関連の組合に出向し、原料から販売までの仕組み構築PJなどを経験し、現在、グループ会社の事業支援などの業務に従事。PMAJ会員、PMR

FI-3 がんばれ日本発メタPM体系 15:35 日本の強みメタPMモデルで世界貢献

日本プロジェクトマネジメント協会
代表・理事長 田中 弘

【セッション概要】

日本発のPM体系では総合エンジニアリング企業のPM体系がグローバルエンジニアリング業界で主流となっており、また、最近PMAJのP2Mがフランス、ウクライナ、フィリピン、インドなどで注目を集めている。世界では日本発PMは“ヘビウエイ”PMと称され、米欧発のPMにない、メタPM (PMを超えたPM) を以て特長とするという評判を得ている。インフラプロジェクトが世界の主流となった今、メタPM体系の世界に向けての普及を担当する講師が日本PMの展開と世界貢献を見通す。

【講演者略歴】日本プロジェクトマネジメント協会代表・理事長、パシフィックPMイノベーション代表、フランスSKEMA経営大学院大学教授 (戦略・P&PM専攻)。2009年まで日揮株式会社に42年間勤務。世界PM界で30年にわたり活動、元グローバルPMフォーラム会長。應義塾大学法学部卒業、フランス (EU) 博士。

FI-4 手仕事の継承におけるPM 16:40 技術提供企業×教育現場×生活者を結び

株式会社 ツクダ・クロス・スタイル
代表取締役 佃 由紀子

【セッション概要】

ファッションビジネスの現場では、海外での大量生産と国内での低価格品に集中した消費が続いている。そんな中、「いいものを長く大切に愛用したい」という《生活者》、その希望を叶えるプロ集団の《提供者》、様々な専門家の立場からサポートする《応援団》を結成し連携していく活動をスタートさせた。本講演ではこの3者を結びつけたプロジェクト活動について報告する。新たな生活スタイルの提案というプロジェクトマネジメントについて具体的な活動を通して紹介する。

【講演者略歴】1986年玉川大学農学部農芸化学科卒。王子製紙株式会社入社、中央研究所パイオチーム所属。1990年 有限会社ツクダ縫製入社 (2004年株式会社ツクダ・クロス・スタイルに社名を変更) 2009年 同社代表取締役。

1日目 (9月9日) セッション概要 - III

PS-1 案件獲得におけるPMの役割 13:10 キャプチャー概念 ～提案段階起点の品質管理～

シップレイジャパン株式会社
代表取締役 北村 和彦

【セッション概要】

欧米でスタンダードとなりつつある「キャプチャー（案件獲得）」というコンセプトに基づき、PMがどういった段階から営業活動にライン参加すべきか、また案件獲得において、セールスチームとPMがどのように連携をするべきかについて、キャプチャーコンセプトの紹介とともに解説を行う。セールスチームとの連携不足の解消のために、PMはどのように能動的に動くべきか、組織としてどのような役割分担を意識するべきか、それらのツボについて話を進める。

【講演者略歴】 1960年生まれ。慶応義塾大学法学部法律学科卒 アクセンチュア パートナー、セビエント株式会社バイスプレジデントを経て、独立。2002年株式会社ドリームスキルパートナーズ設立、2009年 シップレイジャパン株式会社設立。

PS-3 業種業務に精通したPM人材を育成せよ 15:35 IT医療業種スペシャリスト達の終わらなき挑戦

富士通株式会社 ヘルスケアソリューション事業本部
医療ソリューション事業部 佐々木 詠子

【セッション概要】

国のIT政策が進むヘルスケア分野において、医療分野ITプロジェクトをマネジメントするSEには、従来のITやマネジメントのスキルに加え、お客様に提案できるレベルの医療業務スキルを併せ持つことが必要不可欠となってきている。このような人材育成を急務と考え、業種スペシャリスト自らが積極的に推進した人材育成の取り組みについて成果を報告する。本育成手法はヘルスケア分野に止まらず、他の業種、業態にも展開でき、同様の効果が期待される点にも言及したい。

【講演者略歴】 大阪大学薬学部薬学科卒、富士通株式会社に入社。医療情報技師。病院向けオーダーリングシステムの導入を担当後、電子カルテシステムソリューションの立ち上げに携わる。現在は、医療業種スペシャリスト育成のための企画立案、コミュニティ活動推進を担当する。

PS-2 製造業ソフト開発に適した組織構造 14:15

株式会社 堀場製作所
製品化設計部/マネジャー 下野 善弘

【セッション概要】

プロジェクトマネジメントの知識体系では、機能型組織、プロジェクト型組織、マトリックス型組織、PMO等が論じられているが、より複雑な組織構造が必要とされる現場も多い。例えば、いくつかの分野の事業を継続している会社において、プロジェクトの成功と並行して人材育成を成功させるためには、役割別の階層、技術者の能力、分野別のチーム分割を考慮した組合せ型の組織構造が必要である。今回は、製造業ソフトウェア開発に適した組織構造について、実例や経験を基に考察した内容を発表する。

【講演者略歴】 株式会社堀場製作所製品化設計部マネージャ、兼モスクワ駐在員事務所所長。1983年入社以来、自社製品のソフトウェア開発、マネジメントに従事。PMAJ関西幹事、関西P2M実践事例研究会オプショア分科会推進リーダー。

PS-4 国際プロジェクトに通用する人材育成の方法 16:40 国際宇宙ステーションとはやぶさの事例

宇宙航空研究開発機構
執行役 長谷川 義幸

【セッション概要】

宇宙機構では国益をかけて成功させなければならない宇宙国際プロジェクトがある。米欧の宇宙先進国と国際交渉をしながら協調と競争をし、先進技術と先端科学を獲得して科学技術立国・日本の存在を世界に示してきた。国際プロジェクトを成功させるには技術を知った国際交渉のできる人材が多数必要であり、実業務の中でPMやエンジニアを育成している。国際宇宙ステーション「きぼう」と惑星探査衛星「はやぶさ」の事例をもとに工夫して成功した実例をお話しします。

【講演者略歴】 1976年:宇宙開発事業団(現宇宙機構)入社。気象、放送、通信衛星等の地上運用システム開発を担当。1990年より国際宇宙ステーション「きぼう」開発に従事。2009年4月より国際宇宙ステーションと月・惑星探査プログラム(はやぶさ、月探査計画)を担当。現在に至る。

カフェ・ド・eシンポ 9月9日(木) 9:15~17:45 2F 平安

“参加者交流の場” “展示コーナー” “ドリンクサービス”

出展企業名	出展概要
日本プロジェクトマネジメント協会	PMAJが実施する講座、セミナー、出版物等のご案内及び部会、SIG、研究会等の活動のご紹介とご参加案内。
プラネット株式会社	「PM標準10のステップ」「PMP®受験対策」各種アドバンスコースをご紹介。公開コースは、150回を超え、わが国最多の実績。
ITエンジニアリング株式会社	「Oracle PRIMAVERA」などのEPMシステム構築実例や、PMOアウトソーシングサービスなどのご紹介を行います。
株式会社アイナス	EVによる弊社プロジェクトマネジメント「PM-BOX」の展示。
アイシंक株式会社	プロジェクトを成功に導く効果的なPM研修プログラム、チーム力診断等サービスのご紹介。
株式会社マネジメントソリューションズ	PMO実行支援・PMコンサルティング・PMTレーニング・PM管理ツール各種サービスのご紹介。
日揮情報システム株式会社	IT企業、エンジニアリング企業向けのプロジェクト・マネジメント・ツールの展示。

2日目 (9月10日) セッション概要 - I

A-1 21世紀を生き抜くためのPM:プロジェクト&プログラムマネジメント 10:00 考え、企画し、行動し、外部環境からの反応に適切に行動能力があなたの生涯を支える

有限会社 経営組織研究所
代表取締役 渡辺 貢成



【セミナーの狙い】

グローバル競争に勝ち抜くために、How to のPMから展開し、What to のPMを理解しよう

【セミナーコンテンツ】

- アナログ時代の戦略からデジタル時代の戦略への転換。あなたなら何をするか!
- 新興国市場で何が起きているか。日本を追い上げる勢力の動きと、その成功事例
- これらの外的環境に対して、P2Mをどのように役立てるか。プロジェクト成功の仕組みとは何か

【受講をお奨めする方】

経営者、経営企画者、研究開発者、プロジェクトマネジャー、IT発注者担当者、ベンダーITプロマネ

【講師略歴】 職歴:日揮:石油精製(ドミニカ、ブラジル)原子力関連プロジェクト事業副本部長、有人宇宙システム株式会社(国際宇宙ステーション計画で利用・運用・安全・宇宙飛行士育成を担当する企業)専務。JPMF初代事務局長、P2M創設委員会事務局、P2Mガイドブック改定委員長、PMC、PMS講師、東北大MOT講師、北陸先端科学技術大学MOT講師、PMAJ理事、東京P2M研究会代表

A-2 その対策で本当に同じ失敗しませんか? 10:00 ITプロジェクトのなぜなぜ5回 2010

株式会社 富士通アドバンスエンジニアリング
共通技術センター PMO推進室 担当部長 小原 由紀夫

【セミナーの狙い】

トヨタ生産方式(TPS)において真因追究手法として「なぜなぜ5回」が使われている。しかし、ITプロジェクトでの適用では、最適な対策を導けず、同じ失敗が発生してしまうことがある。これは、分析の焦点が曖昧なことと、実施後の真因の影響確認が不十分であることが原因とわかった。1年間のPMAJ-IT-SIGのWGの研究により、従来のITプロジェクトのなぜなぜ5回の前後に、「問題の識別」、「真因の検証」の2つのフェーズを追加した。本講演では、新たな2つのフェーズと、全フェーズを貫く価値共有を中心に述べる。

【セミナーコンテンツ】

- 1.分析の課題と解決方法、2.問題の識別、3.なぜなぜ5回(階)、4.真因の検証、5.価値共有について

【受講をお奨めする方】

1.IT関連のPM、リーダー、2.IT企業の経営者、部長課長、3.TPSに興味のある方

【講師略歴】 1983年富士通入社、出向、転籍を経て現職。20年間、日本の電機・自動車のグローバル企業の工場システム構築にベンダーのプロジェクトマネージャとして参画した。2009年PMI® the BEST of BESTのロゴを贈られた米国ケイデンスマネジメント社認定講師としてグローバルPMメソッドを普及し、TPSのセミナーと実践支援をしている。PMP®。PMAJ会員。PMI®会員。PMAJ-IT-SIG「TPSに学ぶPM-WG主査。

B-1 PMBOK®ガイド解説 13:45 米国PMI®のプロジェクトマネジメント知識体系とその位置づけ

株式会社 ピーアンドアイ
PM教育・コンサルティング本部・ディレクター 内藤 裕一



【セミナーの狙い】

PMBOK®ガイドは版を重ねて第4版となり、内容はますます洗練されてきた。PMP®取得者は30万人を越え、プロジェクトマネジメント知識の標準として広く認められて来ている。このPMBOK®ガイドの概要を解説し、米国PMI®のプロジェクトマネジメント知識体系を理解する。PMBOK®ガイド第4版と整合性をもった、プログラムマネジメント標準第2版、ポートフォリオマネジメント標準第2版も出版されているので、これらの概要と位置づけを解説する。

【セミナーコンテンツ】

PMBOK®のフレームワーク、9つの知識エリア、5つのプロセス群、42のプロセス、及び、ポートフォリオマネジメント、プログラムマネジメント、プロジェクトマネジメントの概要と位置づけの解説。

【受講をお奨めする方】

PMBOK®ガイドの内容を知りたい方、PMP®取得を目指す方、プロジェクト・マネジャー、プログラムマネジャーの方

【講師略歴】 日本IBMにて、大規模システム・インテグレーションのプロジェクト・マネジャー、プログラムマネジャーを務める。アクセンチュア、日本シリコングラフィックス、EDSジャパンで、アウトソーシング・オペレーション担当ディレクター、システムインテグレーション本部長、ソリューションセンター副本部長などを歴任。PMAJ研修2部副部長、国際大学非常勤講師

B-2 OJT依存の人材育成:破たんと対策 13:45 「底上げ教育」から「トップガン育成」へ!

PS研究会、有限会社 デバッグ工学研究所
法政大講師 松尾谷 徹、IPA 原田 奈美



【セミナーの狙い】

本格的にPMが導入され10年、日本の高度技術者(ITSS:レベル6/7相当)の比率は減少の一途をたどり、09年の調査では比率が0.9%と絶滅危惧種に達した。この事実は、人材育成の中心であったOJTが、PM配下では残念ながら機能していないことを示している。このままでは、企業は滅亡するので、OJTに代わるトップガン育成について、実態調査と事例を基に解説する。

【セミナーコンテンツ】

経産省のIT人材育成強化加速事業の中で、成功したエンジニアの「モデルキャリアパス」として、90名のインタビュー調査が行われた。この調査に加わった原田が、高度人材のキャリアパスの実態について解説する。高度人材育成課題の分析から、具体的な対策案、をれらを自ら試行している「トップガン育成」や「ハイタレント育成」の事例について松尾谷が解説する。

【受講をお奨めする方】

人材育成の戦略や企画に関連する方、後継者を育成したい方

【講師略歴】 PS研究会/IT-SIG:PS研究会は2002年から人材育成や仕事意欲の研究活動を行っている任意団体、松尾谷が代表を務める。IT-SIGでは、HRと人材育成に関してジョイントしている。●松尾谷徹:1972年NEC入社、2002年退職し現在有限会社デバッグ工学研究所代表、法政大学兼任講師。博士(システムマネジメント)。●原田奈美:外資系IT企業を経て現在デバッグ工学研究所に所属、IPAに出向中。技術士(情報工学)。

A-3 ITプロジェクトの未来を変える「要求開発」の実践 10:00 ビジネス価値を生み出す新たなマネジメント技法

株式会社 匠BusinessPlace
代表取締役社長 萩本 順三

【セミナーの狙い】 ビジネスの価値を高めるためのソフトウェア開発のあり方、マネジメントの考え方について、要求開発の考え方を更に進めた匠メソッドをご紹介します。その中で、従来の常識が非常識であることを理解していただき、ビジネス価値を高めるためのIT改革の意識を持つようになる。

【セミナーコンテンツ】 要求開発の基礎である、要求開発の4象限、ロールモデルとしてのコタツ形成、要求開発プロセス、要求開発モデルの紹介。
要求開発を更にレベルアップして業務改革・改善プロセスまで網羅している匠メソッドの構成、匠Thinkという考え方とそれを使った業務改善の紹介。匠メソッドで目指そうとしている新たなITエンジニア像、キャリアパス。そして、今後のシステム開発のマネジメントの課題を整理する。

【受講をお奨めする方】 ビジネス企画担当マネージャー、ビジネス業務担当マネージャー、開発部門の方々。

【講師略歴】 オブジェクト指向技術をビジネスで活用するために豆蔵設立に参画。ソフトウェアエンジニアリングを追及しているうちにビジネスも含めてデザインすることの重要性に目覚め、要求開発方法論を策定。ユーザ企業、開発企業で適用し洗練させる。2008年匠Labを設立、2009年には匠BusinessPlaceを設立し、価値を描き・作るためのビジネスエンジニアリングの確立と、IT企業価値向上のための変革を追求している。

A-4 ビジネスとITの融合を支えるIT国際標準の動き 10:00 グローバルな土台に独自技術を開発しよう

株式会社 日立インフォメーションアカデミー
シニアエバンジェリスト 緒方 慎八

【セミナーの狙い】 企業活動は益々ボーダレスとなり人間の活動もITもグローバル化しているが、日本のITは開発も運用も日本の中で閉じた展開をする傾向がありグローバルな土台から遊離している様に見受けられる。グローバル標準を今一度見つめ直すことを訴える。

【セミナーコンテンツ】 経営戦略に基づいて行うビジネスプロセスマネジメント(OMG/OCEB)、IT戦略を立てる際に使用するエンタープライズアーキテクチャー(EA)策定のフレームワークであるTOGAF、そして個別のシステムの開発を行う際の要件定義の知識体系BABOKについて解説する。そしてPMBOK®やCMMIやITILがどう位置付けられるのかも解説する。日本の独自技術を構築していくためにはこれらの国際(デファクト)標準をベースにしていく事が大切に思える。

【受講をお奨めする方】 ビジネスとITの融合を追及するITユーザ、及びベンダの技術管理者/エキスパート。

【講師略歴】 1971年日立製作所入社。OSの設計・開発に従事。1990年から英国、米国、中国へ海外赴任し10年以上海外での技術・システム開発・事業開発プロジェクトに従事。現在OCEB、TOGAF8/9 Certified、CMMI Instructor、PMP®、ITIL Manager、CISM等の資格を持ちIT教育事業に従事。

B-3 手戻りを最小限に抑える要件定義のコツ 13:45 要件定義をスムーズに進める質問力・要約力

有限会社 パスカル
代表取締役 田淵 秀乙

【セミナーの狙い】 ITプロジェクトを始め、一般的にコンサルティング業務の成功はクライアントの求める要件を確実にとらえることにかかっている。しかし、この要件定義が実に難しく、あいまいなままスタートするプロジェクトが多い。結果として、いわゆる手戻りと呼ばれるやり直し、修正が発生し、コンサルタントやベンダーは経済的にも納期的にも負担を強いられ、品質低下につながるようになってしまう。そしてクライアントの不満は増大し、双方不愉快な思いをするのが世の常である。そこで、本セミナーでは要件定義の成功の確率を高めるいくつかのポイントを実例を交えてわかりやすく解説する。

【セミナーコンテンツ】
1. 要件定義とは何か 2. 要件定義の落とし穴
3. 質問力と要約力 4. 実例紹介

【受講をお奨めする方】 要件定義をスムーズに行いプロジェクトを成功させたい全てのプロジェクトマネージャー・コンサルタント・プロジェクトメンバー

【講師略歴】 通商産業省(現経済産業省)、マッキンゼー・アンド・カンパニージャパン、ラッセルレイノルズ、グロービス、日本コーンフェリー・インターナショナルを経て2000年にパスカル社創設。日本を代表する企業群のコア人材育成トレーニング及び、組織変革、業務変革、イノベーション創造、戦略策定支援のためのプロジェクト支援コンサルティングを実施。東京大学工学部原子力工学科卒 東京大学非常勤講師。

B-4 PM成功のための超上流アプローチ 13:45 PMIにおけるビジネスアナリシスの位置付け

International Institute for Learning-Japan 株式会社
シニアコンサルタント 榊原 英昭

【セミナーの狙い】 ビジネスアナリシス(BA)は、ビジネス戦略の企画・立案、要件定義の段階での作業(タスク)とそのための技術(テクニック)を体系化したものである。プロジェクトマネジメントの超上流と位置付けられているBAについて、そのコンセプトやPMとの関連性について解説し、PMIにおけるBAの位置付けや役割を紹介する。

【セミナーコンテンツ】 主に次の事項について解説する。
・プロジェクトでの超上流行程の定義とBA。
・ビジネスアナリストの位置付けと役割。
・BABOK(BA知識体系)のコンセプト(概念)と知識エリアの定義、BAプロフェッショナルの知識の全体像。
・プロジェクトに対するビジネスアナリストの参画と支援の方法。
・知識エリア(ビジネスアナリストが実施する作業)の定義や技術。

【受講をお奨めする方】 プロジェクトに関わるすべての方。

【講師略歴】
・1978年横浜国立大学工学部卒
・金融機関での業務経験を経て、2005年より現職
・システムアナリスト、プロジェクトマネジャー
・著書 システムアナリスト(TAC出版)、ネットワーク技術(経緯書房)他

A-5 チームビルディングからはじめよう 10:00 プロジェクトを成功させる自律型チーム作り

永和システムマネジメント
サービスプロバイディング事業部 担当部長 岡島 幸男

【セミナーの狙い】 短納期・低コストのプロジェクトにより疲弊する現場が増えている昨今、プロジェクトマネジメントの力点は「タスク中心」から「人間中心」に移りつつある。リーダーによるコマンド&コントロールではなく、自律したメンバーから生まれるチームワークにより難局を乗り切る必要があるのだ。これからのリーダーやマネジャーは、プロジェクトの計画作りと同じかそれ以上に、「自律的なチーム作り」の重要性を意識する必要がある。本セミナーを通じ、自律型のチーム作りに役立つ「プロジェクトファシリテーション」手法の価値観や原則を理解いただくとともに、「朝会・ふりかえり・かんぱん」といった具体的手法を身につけ、現場で活用いただければ幸いである。

【受講をお奨めする方】 主にソフトウェア開発に携わる現場リーダー及びプロジェクトマネジャー

【講師略歴】 1971年福井県生まれ。同志社大学経済学部卒業後、株式会社永和システムマネジメントに入社。現在は複数のプロジェクトチームをマネジメントし、福井と東京を往復する日々を過ごしている。著書に『ソフトウェア開発を成功させるチームビルディング』(ソフトバンククリエイティブ)。『受託開発の極意—変化はあなたから始まる。現場から学ぶ実践手法』(技術評論社)他。

A-6 長期的まちづくりのマネジメントとは 10:00 富山ライトレール開業からのその後を見る

環境デザイナー
宮沢 功

【セミナーの狙い】 合理的な効率を求め、基本的に縦割り組織で推進されるまちづくり事業。「公共交通によるコンパクトシティ」の実現を目指し、そのリーディングプロジェクトとして2006年4月に開業した富山ライトレール以降、富山市ではいくつかの関連プロジェクトが実施されている。2009年12月には市内電車環状線事業が開業した。2014年の北陸新幹線開業後、2018年頃の路面電車の南北乗り入れ計画もあり、「公共交通によるコンパクトシティ」実現には10年以上の歳月を必要とする。その実現には複数のまちづくりに関連する事業が有効に連携し実施されねばならない。独立した組織の部署間の調整、市民意識の向上と企業の参加等、難しい状況の中でのマネジメントの意味、多くの課題の発見と解決の可能性を考える。

【セミナーコンテンツ】 まちづくりに於ける目標・時間・コスト・質・組織・マネジメントとは何か。

【受講をお奨めする方】 「よいまちづくりとは」に興味ある全ての方。

【講師略歴】 1941年東京生まれ、1959年GKインダストリアルデザイン研究所に入所、1982年GK設計へ移籍後、取締役社長、取締役相談役を経て2009年4月定年退職。入社以来ヤマハ発動機のモーターサイクル、京都信用金庫のインテリヤ、大阪万博、つくば博、都市のサイン・SFを手がける。2004年富山ライトレールのトータルデザインを担当、その後、市内環状線で路面電車、街路デザインを含むトータルデザインを担当。

B-5 Strengths-Based TeamBuilding 13:45 強みを活かしてチームを作る方法

している株式会社
代表取締役 長尾 彰

ワークショップ

【セミナーの狙い】
◆チームビルディング・プロジェクトのフレームワークを理解する
◆強みを活かした上でのチーム活動の優位性を体感する

【セミナーコンテンツ】
1. オリエンテーション
2. チームビルディング・プロジェクトのフレームワーク
3. ワークショップ
4. リフレクション、ラップアップ

【受講をお奨めする方】
●5人以上の部下をお持ちのマネジャー
●トップダウンよりもボトム/ベースアップの組織を作りたい経営者
●「強みを知り、活かす方法」「チームをつくり、生産性を高める方法」を具体的に知りたい方

【講師略歴】 ファシリテーター。静岡県生まれ。日本福祉大学社会福祉学部社会福祉学科(心理臨床カウンセリングコース)卒業後、東京学芸大学大学院にて教育を研究。その後教育研修会社、玩具メーカー人事、人事コンサルタントを経て、2007年4月より「している株式会社」に所属。企業、職員室、スポーツチームなど、10年以上にわたって500回を超えるチームビルディングプログラムを実施。Educational Future Center代表

B-6 乾いた雑巾より、濡れた雑巾を絞れ! 13:45 「効果」を出す! 3D(XVL)活用の実例

株式会社 やまびこ
開発本部 技術管理部 製品取説課 主任 田中 剛

【セミナーの狙い】 業務改善プロジェクトにおいて、発生事象のみに着目すると「乾いた雑巾」絞りに帰着する。一方、原因を深掘りして要望の本質を追究すれば、全体を巻き込んだ潮流がうまれ、やがては、「濡れた雑巾」を探せ!という意識改革へと発展する。本セミナーでは、「付け合せの野菜」程度に扱われるパーツカタログの重要性を知らしめ、いかに、情報共有化ツールとして昇華させていったのかを「3D WEBパーツカタログ プロジェクト」を実例に報告する。

【セミナーコンテンツ】
1. 現状認識と応急対策の実施
2. 市場要望の本質と思い込みの相違を検証
3. 改善要望の反映と効果の試算(プロジェクト立ち上げ)
4. 全体最適へ向けての情報共有化とは(win-WINの発想)
5. 20%の蟻からの提言

【受講をお奨めする方】 後工程での3D活用を検討されている方、部門間の壁にお悩みの方、即効性の高い改善施策に興味のある改善担当者及び、経営層

【講師略歴】 株式会社やまびこ 開発本部 技術管理部 製品取説課勤務。注目されない業務にこそムダが多いことに着目し、WEBパーツカタログを活用した情報共有の推進や、テクニカルイラストのグレード分類による工数・経費の低減などを提唱。2009年12月、ラティス・テクノロジー株式会社 鳥谷代表取締役と共に、自身の取り組みの経緯と、提案をまとめた「3Dデジタルドキュメント革新」(JIPMソリューション)を出版。

A-7 分断から協働へ 10:00 プロジェクトを成功に導くコミュニケーションは？

PMAJ ダイアログSIG

SIG ワークショップ

このセッションではワールドカフェによって本テーマを探求します。現在の社会や組織に発生する複雑化した問題をPMを用いて解決するためには、主な利害関係者が全体の関係性を理解し協働する必要があります。しかし、私達は自分の立場や意見に固執し、敵対的に閉鎖された関係から抜け出すことができずにいます。また、自分が解決すべき問題を誰かに押しつけたり、引き受けなくて良い問題を抱え込んでいたりします。このように分断された状況を改革するためにコミュニケーションのあり方を変える必要があるとすれば、私達は何をどう変えれば良いのでしょうか？

【ワールドカフェとは】

「深い智慧は、機能的な会議や議論からではなく人々が自由に会話をするカフェのような場や共創的なダイアログから生まれる」という理念に基づいた話し合いの手法です。

【参加をお奨めする方】

楽しく真剣な話し合いをしたい方、ダイアログと内省の中から何らかの気づきを得たい方

【SIGの紹介】当SIGでは、組織変革や新ビジネスの事業化、商品開発、大規模SI等において、対立や矛盾や感情をはらんだ問題に直面し誰も正解を持っていないプロジェクトを想定し、このような状況を克服するためにダイアログやホールシステム・アプローチを活用することを研究しています。また、PMコミュニティにダイアログの場を作ることを実践しています。

●代表:中村 文彦 ●顧問:香取一昭(「ワールド・カフェをやるう」著者)

A-8 「死ぬまでに達成すべき25の目標」ふたたび 10:00 パーソナルPM、4年後の追跡調査

プラネット株式会社
代表取締役 中嶋 秀隆

【セミナーの狙い】

PM手法を個人の目標設定にどう活かすか。4年前に共著『死ぬまでに達成すべき25の目標』を出版し、PM手法の個人生活への適用の一方法を提案した。その際、多くの方にご自分の「25の目標」をご提示いただいた。その後、各人ががどんな進展を遂げているかを追跡調査し、目標設定の意義をふたたび考えてみたい。

【セミナーコンテンツ】

1. メメント・モリ 2. プロジェクト・マネジメント手法を応用する 3. 船長はあなた 4. 自分の立ち位置 5. 自分のビジョンを作る 6. ビジョンを“過去形”で作る 7. 25の目標のすすめ 8. 複雑さを引き受ける 9. 追跡調査—私の25の目標

【受講をお奨めする方】

PM手法を個人の暮らしにも活かしたいと考えている方。パーソナルPMという視点に興味をお持ちの方

【講師略歴】プラネット株式会社代表取締役。日本・アジア地域のビジネスパーソンに、PM技法の研修・コンサルティングを行っている。国際基督教大学大学院修了。京セラ(海外営業)、インテル(国際購買マネジャー、法務部長、人事部長)など、日米の有力企業に約20年間勤務。その間に、海外での半導体工場の立ち上げや会社の設立・合併など、多数のプロジェクトにプロジェクト・マネジャーとして参画。著作翻訳等多数。

B-7 「ドラマチックコミュニケーション」がビジネスを活性化させる！ 13:45 「本質力」を身につけ貴方という個性を輝かせよう！

株式会社 MANY ABILITIES
代表取締役 野原 秀樹

ワークショップ

【セミナーの狙い】

ビジネスにおける「コミュニケーション」の重要性は誰もが認めている周知の事実である。

では、その「コミュニケーション」能力をアップさせるにはどうすれば良いのか?それは「本質力」を身につけ高めることである。個々のスキルや知識がいくらあっても、それをどのように使いこなして成果に導くかと言うことが重要である。その使いこなす力がまさに「本質力」なのである。本セミナーは演劇・インプロ・パレエのエッセンスを活用した体感型のワークにより感性をオープンにし「本質力」を高めコミュニケーションスキルを高める事を狙いとす。

【セミナーコンテンツ】

1 本質力とは 2 コミュニケーションとは 3 インプロヴィゼーションとは 4 ドラマチックコミュニケーションを体感 5 質疑応答

【受講をお奨めする方】

経営トップ、マネージャー、プロジェクトリーダー、コミュニケーション能力のスキルアップを図りたい方 etc

【講師略歴】演劇やインプロ、パレエなどのエッセンスを活用した新しい体感型セミナー、舞台上に学ぶ!!「ドラマチックコミュニケーション」を企画・展開中。フジテレビ「エチカの鏡」にて「ドラマチックコミュニケーション」が「好感度を上げる5つの大人気セミナー」として紹介された。
・ハーマンモデル認定ファシリテーター ・横浜ベンチャーポート登録アドバイザー ・ヒデキパレエ主宰 ・パレエボランティア代表

B-8 狩猟型プロジェクトマネジャーの秘密 13:45 不確実性の高いプロジェクトを成功させる

アイシンク株式会社
代表取締役 伊藤 健太郎

【セミナーの狙い】

プロジェクトマネジャーは任命されればなれるが、難しいプロジェクトを成功できるプロジェクトマネジャーになるのは容易ではない。高い不確実性と様々なステークホルダーとの衝突の中で、手探りでプロジェクトを進めていく以外に方法がないことも多々ある。不確実性が高く、難しいプロジェクトをチームメンバーと成功に向けて進めていけるプロジェクトマネジャー(狩猟型プロジェクトマネジャー)の特徴について様々な業種でプロジェクトを成功させてきた方々のヒアリング結果を基に検討し、どういう視点、思考が成功に最重要なのかを考えていく。

【セミナーコンテンツ】

(1) プロジェクトマネジャーの武器
(2) 未来との格闘
(3) プロジェクト遂行の快楽

【受講をお奨めする方】

プロジェクトマネジャー、プロジェクトマネジャー希望者

【講師略歴】NKK(現JFE)にて、船用エンジンの製造、環境プラントの研究開発、設計、プロジェクトを国内や台湾、タイで実施。2000年にプロジェクトマネジメントに特化した総合的サービスを行うアイシンク株式会社を設立。著書として、「プロジェクトはなぜ失敗するのか」(日経BP社)、「プロマネはなぜチームを壊すのか」(日経BP社)、「戦略的エンタープライズプロジェクトマネジメント(監訳)」(生産性出版)などがある。

A-9 仕事を通じて若手を育てる 10:00 若手が育つ環境づくりと育成のノウハウを学ぶ

グローバルナレッジネットワーク株式会社
人材教育コンサルタント 産業カウンセラー 田中 淳子

【セミナーの狙い】

マネージャーやリーダーの立場にあるベテランにとって「最近の若手は育ちにくい」と思えるようだが、若手が変化したのではなく、若手を取り巻く「環境」が変化したことにより、「育てにくく」なったのである。その変化をきちんと理解した上で、マネージャーやリーダーは若手を育てる必要がある。このセミナーでは、「いかに若手が育つ環境を作るか」、「若手に仕事を教える場合にどんな工夫をすればよいか」など具体的に事例を交えて紹介する。

【セミナーコンテンツ】 ●現代の若手育成における課題 ●若手育成に関する企業の取り組み例 ●若手が育つ「環境」作り ●若手を育てるノウハウ ●具体的な事例紹介 ●近くの方とのディスカッション「自社・自チームの若手育成」
*途中、何度か対話を行う参加型のセミナーです。

【受講をお奨めする方】 ●若手の成長支援に興味のある方 ●若手の育成について参加者同士で考えや体験を共有したい方

【講師略歴】ヒューマンスキル分野の人材育成に従事。企業のOJT制度を支援し、各社のOJT担当者に「若手育成・指導方法」を教えている。「日経コンピュータ」「心とからだのオアシス」などで「若手育成」に関する連載を行う。著書「速効!SEのためのコミュニケーション実践塾」(日経BP社)「はじめての後輩指導」(日本経団連出版)他。現在、日経BPmobile「ケイタイ朝イチメール」連載中。ブログは「ヒューマン・スキルの道具箱」

A-10 コンフリクト・マネジメント 10:00 多様化する職場での協調的問題解決

株式会社 オイコス
メンター 鈴木 有香

ワークショップ

【セミナーの狙い】

多様性を前提とする雇用環境において、職場の問題、ビジネスの問題を捉えるコンフリクト・マネジメントの基礎を紹介する。また、Win-Winという概念を体感し、協調的問題解決の視点からの交渉、問題分析をケース・スタディーを通して学ぶ。

【セミナーコンテンツ】

コンフリクト・マネジメント戦略とその選択、協調的問題解決モデルの紹介、ケース・スタディー、一部体験学習やグループディスカッションを含む。

【受講をお奨めする方】

基礎的なマネジメント・スキル、職場での問題解決能力にご関心のある方々。

【講師略歴】早稲田大学紛争処理研究所研究員、株式会社オイコス メンター。異文化教育コンサルタント。コロンビア大学ティーチャーズ・カレッジ(米国)にて修士号、上智大学大学院文学研究科教育学専攻博士後期課程満期退学。コンフリクトマネジメント、多様性研修、異文化研修、リーダーシップ研修に多数実績。著書に「コンフリクト・マネジメント入門」、文部省検定教科書「On Air」(共著)など。

B-9 リーダーになれるか!?リーダーは育てられるか!? 13:45 リーダー塾とアネゴ塾の取り組みと現場の人材育成を考える

株式会社 アネゴ企画
代表取締役社長 上田 雅美

ワークショップ

【セミナーの狙い】

リーダー塾とアネゴ塾では、各自が組織におけるリーダーとしての課題を持ち、1年間という期間のなかで課題解決に取り組むということをやってきました。また、会社を離れ、コミュニティという場で仲間を持つことによる情報や意見の交換なども取り組んできました。このセミナーでは私たちの取り組みについて知っていただくということと、現場でのリーダー育成や人材教育などについて皆様と考えて見たいと思います。

【セミナーコンテンツ】

・塾の趣旨と取り組みについて
・現場の人材育成をどう考えるか(ディスカッション)
・ミニ塾体験

【受講をお奨めする方】

自らがリーダーとしてチームに位置し現場での人材育成をおこなっている(おこないたい)方、リーダー塾・アネゴ塾に興味がある方、自分たちのチームをよりよくしたいと思っている方

【講師略歴】リーダー塾・アネゴ塾主催。プロコーチとしてエクゼクティブ層を中心にビジネス分野でのコーチングをおこなっている。プライベートでリーダー育成として「リーダー塾」「アネゴ塾」という二つの塾を主宰。http://www9.atwiki.jp/anegokikaku/ 共著「システム開発現場のファシリテーション～メンバーを活かす最強のチームづくり」ブログ:アネゴの仕事日記 http://blogs.bizmakoto.jp/Anegokikaku/

A-11 体験!「質問会議」で変わるチームと組織 10:00 議論する会議から対話する会議へ

ビジネスファシリテーション・サービス
代表 新岡 優子

ワークショップ

【セミナーの狙い】

我々は長年、意見を戦わせるディスカッションベースの会議を行ってきた。結果、分裂を来したり、勝者-敗者の関係を生み出したりしてきた。もう変わらなければいけない!この混沌とした時代には、共に考え、新しい解決策を創出していく、新たなコミュニケーション手法が必要である。それは対話(ダイアログ)である。質問会議はチーム内に対話を生み出す新しい会議手法である。質問するだけで意見を言っはいけないルールがある。本セミナーでは体験を通じてその効果を理解して頂く。

【セミナーコンテンツ】

1. 質問会議の効果と進め方
2. チームに分かれてプロの質問会議ファシリテーターと一緒に質問会議を体験
3. IT業界への導入事例と導入方法

【受講をお奨めする方】プロジェクトを改善したい方、PM育成方法を模索している方、顧客との関係改善を模索している方、自身のコミュニケーション力を上げたい方、組織を変えたい方

【講師略歴】SE、プロマネ、ITコンサルタントを経て起業。オブジェクト指向開発のマネジメント、ビジネスモデリングを取り入れた要求開発、CMMをベースとしたSEPG及びSQAの活動支援を柱に、ファシリテーションとアクションラーニング(質問会議)を取り入れた、チーム育成、PM育成、プロセス改善、組織改革を行う。ファシリテーションの伝道師兼実務者として、講演、執筆にも取り組んでいる。日本ファシリテーション協会会員。